

おわりに

この度は当同好会の展示へご来場いただき、そしてこの会誌を最後までお読みいただき、ありがとうございます。どうでしたか。楽しんでいただけましたか。

当同好会は今年も新入生に恵まれ、そのひとりひとりと話してみるとみんな独特な感性を持っているように思いました（まだみんな爪を隠しているニオイはあるので、僕としてはどンドン外にぶちまけて行ってほしいのですが…）。彼らにはこれからの彼らの数年間をかけて、さまざまな発想を持ち寄り、総合し、自由に柔軟に生き生きと（注文が多いか（笑））、これからのF同を形作って行ってほしいと思います。そしてどのようなときにも、まぎれもなく僕らを通底しここに集わしめた藤子不二雄の精神をどこかに実感しながら、あくまでゆるやかな気持ちでF同の活動を楽しんでもらえればこれ以上の喜びはありません。そしてその活動を透過することで、彼ら自身の生活にあたらしい何かが見いだされることを期待しています。

会誌のあとがきの場を借りて後輩への思いを書いてしまいましたが、なにぶん直接言うのが少し恥ずかしかったのです、ご容赦ください。これからのF同はどのように創造発展してゆくのでしょうか。僕はいつかの会長としてうまくその深化に貢献できたとは思えないのですが、とにかくこのサークルには、藤子不二雄の漫画に展開されている科学と生活の両方に染み込んだ哲学を知り、理解を深め、実践する足掛かりとなるひとつの拠点でありつづけてほしいと願っています。おなじようなことを繰り返し書いていますが、これが本心なのです。

あらためまして、この度はご来場いただきありがとうございました。私事ですが、学年が上がり時間の余裕が無くなってきたなか、昨年につくれなかった会誌を今年なんとか完成させることが出来たのは、もちろんひとつは会員の協力のおかげですが、じつは昨年の学祭で会誌を楽しみにしてくださっていた方々から応援のお声を直接いただいたからでもあります。そのことについて、心から感謝を申し上げたいと思います。



前会長 清水